

News Letter

■2009年10月19日発行 ■編集・発行／三重大学高等教育創造開発センター

2009年度 三重大学全学FD の報告
「PBLを導入した授業デザイン」

2009年9月24日（木）の13:30から17:00にかけて、三重大学全学FD「PBLを導入した授業デザイン」を開催しました。今回は、学生の主体的な学習を促すひとつの方法であるPBL（問題発見解決型学習）をテーマとして、PBLを導入した授業のデザインと運営について理解を深めるために、三重大学において多様なPBLに取り組まれている先生に実践の報告をしていただきました。

プログラムの全体は次のとおりです。

三重大学の教育目標と教育活動 野村由司彦（理事・副学長（教育））
PBLとは何か 山田康彦（HEDC/教育開発部門）
PBLを導入した授業：事例報告1 杉浦絹子（医学部看護学科）
PBLを導入した授業：事例報告2 赤木和重（教育学部）
PBLを導入した授業：事例報告3 北 英彦（工学部電気電子工学科）
全体討論

三重大学における教育

最初に、教育担当の理事である野村先生が、PDCAサイクルを用いて「三重大学の教育目標と教育活動」について説明しました。Planとして教育目標である「4つの力（感じる力、考える力、コミュニケーション力、生きる力）」について説明し、Doとして初年次教育やPBL教育を紹介しました。次に、Check・Actとして教育改善のシステムと授業アンケートについて説明しました。最後に、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）という三つの方針に沿った教学経営と単位の実質化の重要性を指摘しました。

次に、高等教育創造開発センターの教育開発部門長である山田先生が、「PBLとは何か」という題目で、PBLの定義と三重大学の教育目標との関係、三重大学におけるPBL教育の導入と展開の過程に加えて、世界におけるPBL教育の歴史と現状、PBL教育の基本要件や種類について説明しました。

PBLを導入した授業の事例報告1

杉浦先生は、医学部看護学科の2年次の必修科目である「母性看護学Ⅰ」（受講生80名）において導入しているPBLチュートリアルの実践を報告して下さいました。科目の目的は、PBLチュートリアルを通して母性看護学のキー概念であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの理解を促すとともに、現代社会における母性看護の役割について考える機会を提供することです。15回の授業のうち、第1～5回の授業でPBLチュートリアル①、第6～13回の授業でPBLチュートリアル②を導入しているということです。今回は、PBLチュートリアル①である「子どもをもつということ」の授業内容、方法、評価について説明して下さいました。



PBLを導入した授業：事例報告2

赤木先生は、共通教育の選択科目である「PBLセミナー：「超」学習法を考えよう」（受講生14名）の実践を報告して下さいました。科目の目的は、効果的な学習法を自分たちで考え、その効果を実験や調査によって実証することです。15回の授業は4期に分けられています。第1期（第1～3回）にアイス・ブレーキングをし、第2期（第4・5回）にテーマや方法を検討し、第6回に授業内で中間発表をします。第3期（第7～10回）に実験・調査をし、第4期（第11～13回）にデータを分析します。第14回には、授業内で最終発表会をし、第15回の公開発表会（代表のみ）に臨みました。授業運営のために意識していることは、①「自由に」でも「枠（目的・ゴール・役割）は明確に」、②「身近に」でも「深めるような」素材の設定、③発表と質問を鍛えることであるということでした。



② PBLを導入した授業:事例報告3

北先生は、工学部電気電子工学科の3年次の必修科目である「電気電子設計」(受講生20名)におけるソフトウェア設計の実践を報告して下さいました。科目の目的は、オリジナルのゲームのプログラムを設計することによってソフトウェアの設計を経験することです。15回の授業では、第1回に、全体の説明、取り組みの対象となる5つのテーマについて説明があり、学生が取り組むテーマの希望調査(2テーマ/名)をします。そして、第2~8回に1つ目のテーマのプログラムを設計し、第9~15回に2つ目のテーマのプログラムを設計します。2008年度には、学生のコーディング作業を支援したり時間の短縮を図ったりするために、北先生ご自身がアシスタント・ツールを開発して学生に提供しました。その結果、ツールを提供した時の方が、プログラムの完成度は圧倒的に高くなったということでした。



② PBLを導入した授業:全体討論

事例報告の後には、全体討論をしました。主な内容として、効果的なPBLのためのグルーピングの方法とグループ内における関係づくり、最初の問題を設定する方法、学生の学習意欲を維持・向上させる方法がありました。また、PBL教育を導入して数年経つと、教員自身のチャレンジ精神ややる気が導入時とは異なってくるという問題も明らかになりました。

討論の中では、高等教育創造開発センターが2007年に作成した『三重大学版PBL実践マニュアル』に示している「PBL教育の6つの基本要件」では多様なPBL教育を包含しきれないために多様な視点が含まれるような表現等に変更する必要があること、PBL教育を導入することが目的ではなく学習の到達目標を達成するための手段としてPBL教育があることを今一度確認する必要があることも指摘されました。

② 新任教員オリエンテーション

PBLを導入した授業に関する事例報告と討論の後には、主に新任教員を対象として、授業デザインの方法、三重大学の学習・教育支援環境としての附属図書館、学生なんでも相談室、Moodleについての説明会を実施しました。主な内容は、次のとおりです。

授業デザインの方法 長澤多代 (HEDC/教育開発部門)
三重大学の学習・教育支援環境: 附属図書館 萩野三明 (附属図書館)
学生なんでも相談室 鈴木英一郎 (学生なんでも相談室)
Moodle 森尾吉成(HEDC/教育情報システム部門)

それぞれの内容については、他の機会に紹介する予定です。

今回のFDの配布資料、事後アンケートの結果等につきましては、高等教育創造開発センターのホームページで公開する予定です(学内限定)。ご活用いただければ幸いです。

<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/>

(高等教育創造開発センター 長澤多代)

受付中!

PBL教育支援プログラム

目的:

- ◆学生の主体的な学習を促進する科目を財政的に支援する
- ◆先生方の実践と成果を学内の関係者と共有する

応募の締切:10月26日(月)正午
詳しくは、HEDCのHPをご覧ください。



三重大学全学FDを開催します!

「オーストラリアの大学における教育質保証の取組」

杉本和弘准教授(鹿児島大学)

10月26日(月)16:30~18:30

会場 メディア・ホール

参加のお申し込みは下記まで。

